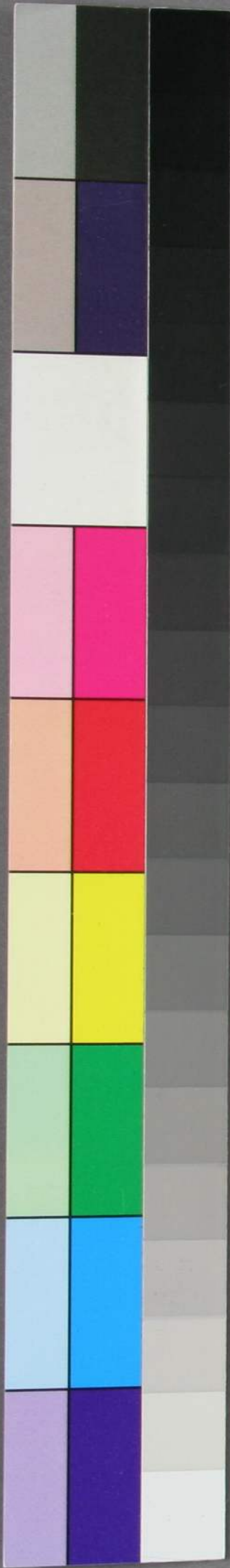


四十組之記

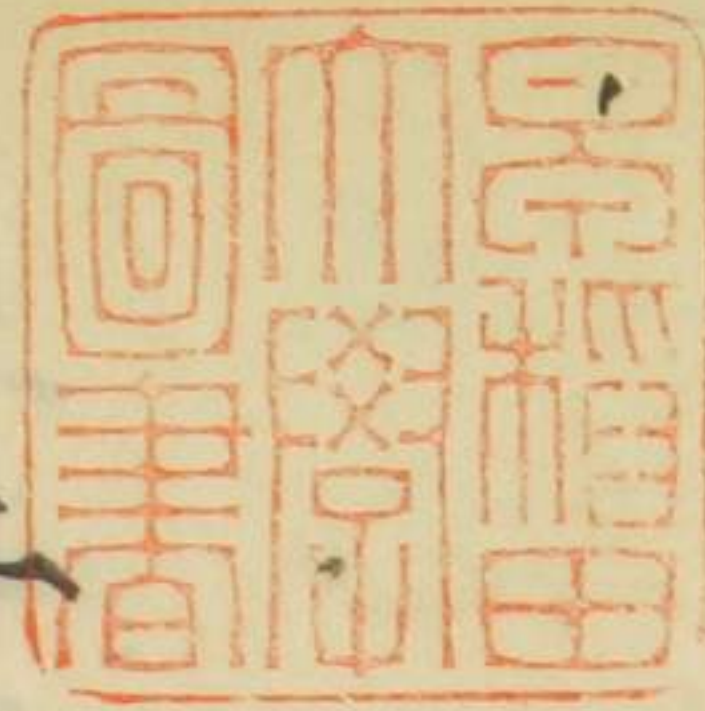
花

櫻香	雉子香	梅畑香	梅花香	子日香
篝火香	山路香	郭公香	五月香	卯花香

多
1338
27



門 9多
1338
27



四十組之内 花

子日香

卯花香

梅花香

五月香

梅烟香

郭公香

雉子香

山路香

櫻香

篝火香

麝香

蘇合香

安息香

乳香

蘇合香

檀香

蘇合香

白香

子日香

檀香

四下懸之內

卷三

子日香

三三三

香四種

一、蘇合香 二、安息香 三、檀香 四、乳香

一、蘇合香 二、安息香 三、檀香 四、乳香

三三三

客よりて

一色徳女試

右試終りて出香十包と二包で、結合を打

文柱出ま、試合札打り、結よたの如し

客二 子年まき

二一 かまね松

三一 子年まき

二三 月あられて

客三 美代や藤

右のこゝに二包つ入、張紙の多し、打文一紙

つ、元柱出ま、すゆき、記録、香二種と歌の

一句つ、五行の書あり、記紙よりす、記紙の付

の分の五句より、書付出ま、金一、松記録

の面を待て下考たのし

一谷成五た一書家十高次をさす行徳也

氏名其少家十念也其二三言一其一其の教

子日香

二三 二三 二三

谷三 望六 三三 二三 二三 二三

名 子年ま 多代やん 一
ウキカ 三三 二三 二三 二三

名 子年ま 多代やん 全
ウキカ 三三 二三 二三 二三

月日 出番 名衆

記録 子年ま

雨飛 花の香 下 花の香

八月 花の香

花の香 花の香

花の香 花の香

梅花香 花の香

香三種 花の香

花の香 花の香

花の香 花の香

右試好 一 二 各七包 折入 二包 投 残り

五色と炷をばりて試み合て札打をばりて
二包の内一包入れて炷をばりて初めをばりて札
打をばりて試み合て札打をばりて
合点をばりて

右の香をばりて試み合て試み合て試み合て
試み合て試み合て試み合て試み合て

通了すをばりて試み合て試み合て試み合て
先は本香をばりて試み合て試み合て試み合て
一の香三種出たに試み合て試み合て試み合て
香三種出たに試み合て試み合て試み合て
初立炷の内は本香をばりて試み合て試み合て

五柱の内何れも三種の物を用いた所

梅の花と書
あまのつばき

一の香三種通るたる人々 梅の花と書

二の香同めきれ 久々の書

一の香一様と遠く 久々の書

二の香同めきれ 久々の書

客斗の南の 久々の書

右の名目の中は 全の久々の書

教のふく梅と書 但中は 右の久々の書

記録たの

梅花香之紀

若 青柳

一 二 二 一 一 一

夫 一 二 三 四

四

若 杜若

一 二 二 一 一 一

梅の花

梅

月日

出香名乘

記限是子頰よる

梅の香の純

香

杜若

山梨

土香

梅畑香

香三種

梅

畑

香

徳

右試焼く出香三包ヲ入煙寺ヲ焼く
試合名集此ノ書附出香ノ書ノ下
ノ一人守二百以不置一名一人守二百以不置一名
一人守二百以不置一名一人守二百以不置一名
人守二百以不置一名一人守二百以不置一名

梅烟香記
梅烟
香

梅香烟

名 梅烟香
名 梅烟香
名 梅烟香

月日
出香名集

記録ノ順ヲ

新編本草綱目卷之四十八 香部 香木類

沉香 樹木之脂也 味辛 性温 入心 胃 脾 經

白檀 樹木之脂也 味辛 性温 入心 脾 經

降香 樹木之脂也 味辛 性温 入心 脾 經

蘇合香 樹木之脂也

木香 樹木之根也

乳香 樹木之脂也

三合香
雅子香 葉木之根也 味辛 性温 入心 脾 經

交香 四種也 樹木之根也 味辛 性温 入心 脾 經

甘香 一種也 樹木之根也 味辛 性温 入心 脾 經

木香 一種也 樹木之根也 味辛 性温 入心 脾 經

三香 一種也 樹木之根也 味辛 性温 入心 脾 經

各々

一合は徳元試

右をうめよ一二三の内一二二と一括ひ三三
と一括ひ括ひを試して三包つ二括ひを打
文一括ひ三包を括出に一二二と目之の合の野
と書三三二と書ひまけり書何成共一括

三包の内残三包の一括ひより一二三各包の
内へ入七包して括物を試は合々名乗れ
書附る尤一二三の文字を書合一本書
一二三出れぬ教の始の五入字を合合る三三二
と書合お二の向きしむぬへ合合る各々の

何番目とカニまこのぬは一字を何番

書付たてのニ番ぬの三と書四番ぬの四

書外の一二三下の句の片は書付たてを巻

後書く次たのり

三春の野はあはれまいたの事を下外

狂化の衣を結く了考たのり

進子香に

春の野はあはれまいたの事を下外
あはれまいたの事は下外

春の野 三三二二 全

名香... 三三三三三三三三三三

月日... 出香... 名乘

化尿之... 三三三三三三三三三三

... 三三三三三三三三三三

標香

香四種

初春... 三三三三三三三三三三

... 三三三三三三三三三三

... 三三三三三三三三三三

三才香 櫻 香

香四種

初春 上 鉢 了 罇 徳内 一色 試

如月 香 了 罇 右 同 乃 罇 試

孫生 了

右 同 乃

三才香 櫻 香

月日

香 罇 試

三才香 櫻 香

三才香 櫻 香

花

三包張紙

右試紙より出香十二包打交内二包後十包
と桂土も各一 二種一各一と名乗紙
よ書付由き金一各月たの

一 二 三

初春

二 三

如月

三 三

冰生

一 二

白雪

二 三

白雪

三 三

下野

三二とさひ

枝打と書

二ウとさひ

夕菜と書

ウ二とさひ

見花と書

ウ三とさひ

夕花と書

三ウとさひ

朝花と書

二ウとさひ

尋花と書

ウ一とさひ

曙と書

ウウとさひ

色香と書

二二とさひ

横雲と書

三二とさひ

本朝と書

右の二種目しつて名目一つを附

答の残りありて記の題を歌を言ふなり

答一種出たり

極夜山の子度川の
山のくまもり

二答二種出れり

あしきりてのまきなるもつて
山の端より

答三種出たり

しつての山をまき極夜
度なるのまきありて

其外記の表より考へて記録あり

歌一首

山をまき

櫻香記

和春一

如月一
花

其香之類
二
三

名

白雲朝花

色香如月

下卧

全

名

白雲如月

色香朝花

下卧

大

接花雪の香の如き花の

月日

出香名乗

記尿之類

杏四種

春
色香内一色試

夏
右同

秋
色香試

櫻香記

各一

...

...

...

...

...

...

卯花香

香四種

春... 一包德内一包試

夏... 右同

恒根

三色德

卯花

一包、徳右同り

右試飲し春隻の四包と打交て一包抜
三包と垣根卯の花の四包とまきしとて七包
打交焼しと、春隻の香は試し合
卯一 垣根卯の花の香は三種の煎香

有と垣根一 試の一種と卯の花と
春隻一 字焼し名乗代は書附出
記録の一隻二種出れ、出香の下は歌と
書一 春二種出れ、記録の香は歌と書
春二種出れ、木香の下香とかくとつ
記あり、ついで春隻

歌大の

我嘉の垣根の春と争うらん
うらなをくくすんや卯の花

其外記の面を結んで考大の

卯花香記
春 一
垣根 一
卯花 一
春 一
卯花 一

名

卯花 垣根 垣根 其 卯花 一

二

名

卯花 卯花 卯花 卯花 卯花

裂

我嘉の垣根や春と争うらん 其外記の面を結んで考大の

月日

出考名衆

記録先ノ順

新製多事則

其香之清烈也

其香之清烈也

其香之清烈也

五月香

香四種

香四種

香四種

香四種

香よりて 二包徳生試

右試終りて出香一二三九包とや又二ツ
分て始の四包は香を加て五包よりて炷出は
残五包は香香一種加て六包よりて折交
内より二包ぬす金一はるは香香の有る包

くさすてきる金一 香香初後二種出る
思へ右同と花橋袖の香と書金一初一種
斗とやのむ橋斗半金一外ハ一二三の
文字と書附金と金の入はまの下敷の紙と
五月と書香二種出ると記の通子香とかく

此係是...
又一字...
所...
今...
一經

郭公香

此組香の香枝不足人教...
此值...
此...
此...
此...

の内より一二三の文字より十迄は五下探
観して洛し一包つゝ其持本の香と包を
記録のあ後の色紙の文字一二三と
座を定むるや一入封の
扱中板は右十包お支何番目我香と

思へ一字と書附せたるは六番目
六と斗書附せしや又座中同香出る
時の香造りては同香と番目一所より
われい南よるや
三種出ると三と又同香出ると我香の復

之南れい同之点三種多れい四五より亦同香
 出らる我香も不聞又同香も不聞点同極子
 星を附る常の多るふい星一ツあり此記表
 之能く了るたのそりて同極子

極子一極子の本所是は法入何れ香も同極子

- 名集
 一香銘 二香銘 三香銘 四香銘 五香銘 六香銘 七香銘 八香銘 九香銘 十香銘
 名集
 二香銘 四香銘 六香銘 八香銘 十香銘

郭公香之記

十八 九 六 一 三 五 四 七 二

名 五
 名 八

各六
同三
種
會
山
道
山
米
同
香

月
日
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二

記
録
之
項
目
一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二

記
録
之
項
目
一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二

山路香

香
五
位

行
中
七
十
五
位
一
包
成

山
道
七
十
五
位
一
包
成

山
道
七
十
五
位
一
包
成

香六

月日

江流之肉...

是光山路香

香五種

行...

山路...

右同...

今一色のりて 右同断

ま廣にたゞりて 右同断

右試紙より出香五包打交柱を五年試紙

合名製紙の書附出を 扱右の試香を又元の包紙

より入先の試紙少くは柱室より五包打交又す

年一先今一香のまゝはふりきたりて香の

心より 右に五種より 郭公の香斗二点

掛香一 函五種より 二点より 但郭公初香

ハ二点初下りて年外初不南ハ一点之あ方

南ハ二点下りて年一 其外記の表より

能くうまうたのこ

山崎

山崎

山路香之池

山路香之池

名	一 二 三 四 五	六
名	二 三 四 五	全

月日

元禄七年

右内

琴の調子

凡日

六
三二三四五
六

後西院
振中製
箏火香

香四種

一、原氏
二、内
三、包
四、試

三、玉葛
右同
右同

三、琴
右同
右同

答

一色ハ流石試

右初ハ原氏二包と一結ハ玉葛二包と一結

ハ一結ハ打文内一結ハ六琴一種

加ハ三種打文柱出ま今 一一三カ 三一一カ

一三二カ 三二二カ 二二二カ 二二三カ 二二三カ 二二三カ

記録ハ一ハ二文ハ一ハ夕月夜と書片

一三の文字と書南ハ点々ハ二二とマハ

原氏と書右も同ハ点々ハ右ハ三種ハ

扱一結ハの内結ハと柱出マ一ハ原氏

二ハ原ハ玉葛と書右二股ハ扱三の書一

種々各香一種加へ二包を交へて初冬の香
出れい篝火と書初冬の香出れい香の煙と
書右三候より扱踐香一二三打交へて
炷出をけふ一一の香は夕暮と書二の香は
杓木と書三の香は弁少將と書各三の香は

もく江の香と書と書魚

各三と出せり

篝火と書香の煙と書
初冬の香出れい香の煙と書

三各と出れり

いあるまき香はけちるよ篝火の
たより香の煙と書

又三密先に出る海の香と先香と香三香

出ると右同の危角出るとくお境く二角

書ゆり 中書ゆり 出るとくお境く二角

記保たの如

抄今記保たの如

一 二 三
二 三 一
ウ 一 二
一 二 三
ウ 一 二

篝火香之記

名 一三二 玉葛 篝火 夕霧 少将 柳木

名 二二三 夕月夜 玉葛 相本 夕霧 少将 柳木

川糸をきき定しりちてよ篝火の江よまたく少相とる

月日 出香名表

江原之... 今の人... 今昔...
江原之... 今の人... 今昔...
江原之... 今の人... 今昔...

...
...
...

...
...
...

江原之...
...
...

...
...
...

